

テーマ:

# 生き物との共存 ～ぼくらはみんな生きている～

静岡県  
賀茂郡  
西伊豆町立  
伊豆海認定こども園  
服部先生・高柳先生



## この活動の特徴



### 「凜々子」活用のポイント①

鹿などの食害を防ぐ工夫を重ねた栽培活動

### 「凜々子」活用のポイント②

生き物との共存にまでテーマを広げて考える深い取り組み

## 活動のねらい

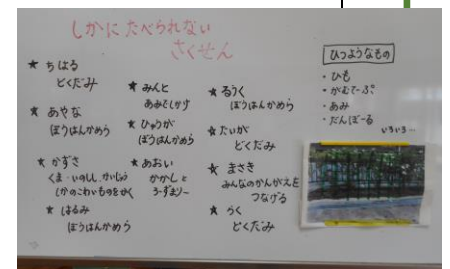


- 食べ物を育てる大変さ、収穫の嬉しさ、おいしさ、食べ物の大切さに気付く
- 凜々子や植物を通して、生き物との共存を考える
- うまくいかないことがあっても、試したり工夫したりして最後まで取り組む

## 活動の概要と流れ

対象学年 : 5歳児(11名)  
実践期間 : 5～8月

| 時期  | 学習活動  |
|-----|---|
| 5月  | 鉢に苗を定植<br>昨年は鹿の食害にあったため、ネットで囲った畑の中の限られたスペースで栽培<br>5歳児が「鹿研究所」を作り、鹿の食害対策を考える<br>日照が不足して、苗の葉が黄色くなってしまふ<br>知りぐされ症が発生<br>発症した果実は鹿に食べさせようと、取っておく<br>日当たりのよい広い場所に移動し、様子を見る |
| 7月  | 完熟した果実がハクビシンの食害にあふ<br>鹿用の戻ぐされ果実が追熟して赤くなることを発見<br>青い実を収穫し、追熟して食べる方法に気づく<br>園で給食に用いたり、家庭に持ち帰って料理していただく  |
| 10月 | 運動会で生き物との共存をテーマにお芝居を演じる   |



## ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

### 栽培活動には鹿の食害という大きな課題が

昨年、凜々子を栽培した時には、野生の鹿の食害という思いもかけない被害にあい、凜々子はほぼ全滅。園児も先生方もとてもショックを受けました。今年こそは、対策をしっかりとリベンジしたいと考えていました。昨年の惨状を知る5歳児は「鹿研究所」を作り、鹿レンジャーとして活動を開始。まずは夜にやってくる鹿の姿を捕らえようと、段ボールで防犯カメラを作って設置しました。「段ボールのカメラじゃ、鹿は怖がるかもしれないけど、撮影はできないね」と話していた矢先、5歳児担任がこっそり写真を撮って、防犯カメラに貼付けておいてくださいました。これがきっかけとなり、鹿対策は園全体の課題になりました。

バナナの皮で鹿を滑らせるアイデアや巨大なゴキブリホイホイのような鹿をくっつける装置まで試しました。子どもたちの課題に立ち向かう感性豊かな作戦がどんどん飛び出しました。



手作りした段ボールの防犯カメラ

### 鹿除けが招いた日照不足

凜々子の苗を鉢に定植し、鹿除けのためにネットで囲った畑で育てることにしました。しかし、しばらくすると、凜々子の葉っぱが黄色く変色してきました。どうやら苗がくっつき過ぎて、日照不足と風通しが悪かったようです。そこで、もっと日当たりのよい広い場所へ鉢を移し、ネットを張り直して栽培を続けました。いよいよ収穫という時に、またも問題が発生。尻ぐされ症が出てしまったのです。追い打ちをかけるように、樹上で完熟した数少ないトマトを狙って、ネットの隙間からハクビシンが入ってきてほとんど食べられてしまいました。悔しくて、尻ぐされ症のトマトを食べさせようと取っておくと、数日後には真っ赤になっていたことに気づき、尻ぐされ症になっていないトマトを青いうちに収穫して、追熟させる方法を考えました。この方法で赤くなったトマトを家庭に持ち帰り、食べていただきました。

### 生き物との共存をテーマに発表

これまでの経験を基に、運動会では鹿やハクビシンなどの生き物と人間の共存をテーマにお芝居を発表。人間の行った開発により山林に動物たちの食べ物が少ないことや、生きるためには食べ

る必要があること、命の大切さを表現しました。

### 先生から一言！ 実践を通して

昨年の鹿の食害を知っている5歳児は、今年こそは無事に凜々子を収穫するぞ！という意気込みで栽培を始めました。鹿から凜々子や他の野菜を守るため、子どもたちはいろいろな工夫を考え出しました。クラスだけに留まらず、園全体を巻き込み、それでもわからないことはお父さん、お母さんに聞いたりしました。そんなやりとりが続き、鹿除けの装置作りでは材料を家庭から持ってくるなど、次第に家庭の協力も得られるようになりました。大人だったらあきらめてしまうようなことでも、子どもたちは粘り強く「調べよう！聞いてみよう！試してみよう！」と意欲的で、失敗もありましたが、たくさんの達成感を味わいました。夏が終わっても、凜々子の栽培をきっかけに、生活や遊びの中でも、次になにをやるか、という前向きな姿に代わった子どもたちの姿がありました。



### 受賞理由

自然豊かな地域にある園ならではの悩みの解決に向けた取り組みがユニークです。鹿やハクビシンの食害をいかにして防ぐのか、5歳児のやわらかい頭と心で考えた方法で凜々子を栽培しています。やっと収穫できた凜々子を味わった時のおいしさはきっとずっと子どもたちの心に残っていることでしょう。